



結核しずおか

57号 2025年9月29日

発行・編集

公益財団法人 静岡県結核予防会

〒420-0915

静岡市葵区南瀬名町 6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizuoka@gaia.ocn.ne.jp

HP www.jata-shizuoka.org



巻頭言

静岡県結核予防会は公益財団法人となって13年を迎えました。静岡県民の皆様の健康を守る最初のセーフティネットであり、疾病のスクリーニング事業として半世紀を超えて活動を続けて参りました。本会の検診事業は県内自治体や施設、事業所職員の方々、基幹病院や実地医家の先生方のお力添え無くしては日々の業務が立ち行きません。日頃のご理解とご協力に際しこの場をお借りして御礼申し上げる次第でございます。

さて本会は結核予防と疾病発見を中心として県民の皆様の健康推進に力を入れて参りましたが、市井の中には結核は既に過去の病気であると誤解している方もあるようです。

感染症には定点(全国5,500ヵ所)把握の対象となる5類感染症と全数報告の感染症(1~5類)があり、結核は診断がつけば直ちに最寄りの保健所へ報告が義務付けられた全数報告(2類)の感染症です。令和7年第1週から第26週(6月29日迄)の結核発生数は全国で6,735件あり、令和6年同期の累計報告数は7,538件でした(国立感染症研究所感染症疫学センター集計)。即ち毎週200名以上の結核患者が出ており、今なお結核は日本最大の感染症です。時に爆発的流行を起こすウイルス感染症とは異なり発育伝播速度が極めて遅いため自覚症状が乏しい方もあり、微熱や咳嗽、倦怠感が出てから医療機関を受診する迄に時間を費やしたり喀痰検査を繰り返してようやく診断される事例も少なくありません。結核の診断はX線やCT検査等の画像所見のみで診断はできません。必ず喀痰等気道分泌物を検査することが診断上必須条件であり、凡そ見込みで判断して治療を開始することはありません。服薬治療を開始しても全治まで数カ月以上を要するため自己判断で治療を中断することが無いよう届け出のあった保健所と連携して診療を行います。必要に応じて保健師が患者さんの許に指導に赴くことが法令で義務付けられています。全国の令和6年の結核発生届け出数は10,051人、結核による死亡数は1,461人(概数)でした。静岡県における結核新規登録患者数は令和5年は281人、令和6年は249人の登録がありました。10年毎にみると結核の発生件数は確実に減少傾向と云えますが、ときに集団感染が発生することがあります。令和6年10月下旬、静岡市内在住の20代男性(学生)が市内医療機関を受診した際、肺結核と診断されました。喀痰より多量の排菌が確認され画像診断と併せて感染性が高い状態として接触のあった関係者を対象に接触者検診(胸部X線や感染の有無を確認する血液検査等)が実施されており、24名の感染者を確認しています。市保健所によると現在まで初発患者の方以外の発病者は出ていないということです。静岡県では10年ぶりの結核集団感染でしたが、全国では例年報告が寄せられ過去30年間では1,125件の結核集団感染が報告されています。以上のようにわが国においては依然として発症の監視を怠ってはならない重要な公衆衛生上の課題と云えます。



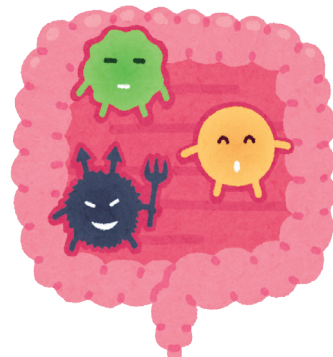
感染症対策と腸内細菌の関係



腸内細菌は、私たちの腸の中にすみつく微生物で、私たちの健康を陰で支えてくれる存在です。これらの細菌は、消化を助けたり、免疫力を高めたり、体内のバランスを整えるなど、さまざまな重要な役割を果たしています。

善玉菌は腸内を酸性に保ち、有害な菌の増殖を防ぎます。一方で悪玉菌は、腸内環境を悪化させることがあり、過剰になると体調不良の原因になります。日和見菌は善玉と悪玉のバランスを見て働きを変える“中立派”のような存在です。

腸内細菌のバランスが保たれていると、便通が整い、アレルギーの予防や呼吸器感染症の免疫力や炎症反応にも良い影響を与えることがわかってきています。さらにはメンタルの安定にもつながるとされています。まさに、見えないけれど頼れる“おなかの仲間たち”なんです。



それでは、腸内細菌を増やすには、日々の食事や生活習慣を見直すことが大切です。特に善玉菌を増やすことが腸内環境の改善につながります。

まず、発酵食品を積極的に取り入れることが効果的です。ヨーグルト、納豆、キムチ、味噌などには乳酸菌やビフィズス菌といった善玉菌が含まれており、腸に直接働きかけます。ただし、これらの菌は腸に定着しにくいので、毎日継続して摂取することがポイントです。

次に、食物繊維やオリゴ糖を含む食品を摂ることで、腸内の善玉菌のエサとなり、菌の増殖をサポートします。バナナ、りんご、海藻類、ごぼう、玉ねぎなどが代表的です。これらは「プレバイオティクス」と呼ばれます。さらに、プロバイオティクスとプレバイオティクスを組み合わせる「シンバイオティクス」という食事法も注目されています。たとえば、ヨーグルト（プロバイオティクス）とバナナ（プレバイオティクス）を一緒に食べることで、相乗効果が期待できます。

加えて、ストレスを減らし、十分な睡眠と適度な運動を心がけることも、腸内細菌のバランスを整えるうえで重要です。腸は自律神経と密接に関係しているため、心身の健康が腸内環境に影響を与えるのです。

結核・呼吸器感染症予防週間のご案内

結核を始めとする呼吸器感染症は、日本のみならず全世界に及ぶ重大な課題です。そこで、これまで結核予防週間事業で培ってきた成果を生かしつつ、令和6年度から結核予防週間と同時期に「呼吸器感染症予防週間」を設定し呼吸器疾患などの感染症について積極的な普及啓発活動を行い、呼吸器感染症全般に対する国内のみならず国際的な予防対策の一層の推進を図るため、9月24日から9月30日までの『結核・呼吸器感染症予防週間』とし、皆様に結核及び呼吸器感染症に対する正しい知識を得ていただけるよう、今後もより一層の普及啓発を推進してまいります。

もういいかい？
まーだだよ

忘れず緩めず、終息へ
結核には
まだまだ対策が必要です

もう、結核は昔の病気でしょう？

いいえ、今でも結核は
慢性的なパンデミックだよ

1年間の
世界の
死亡者数
結核 100万人以上
コロナ 220万人

かからない・ひろげない
呼吸器感染症
毎日・毎年の予防を続けよう

もう、たまにはやらなくてもいいんじゃない？

いいえ、まだまだ。継続こそが予防だよ

換気 マスク 手洗い ワクチン

結核・呼吸器感染症予防週間
9.24~9.30

結核予防会 JATA

このポスターについてお問い合わせは、各自治体へお問い合わせください。
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 1-3-12 公益財団法人結核予防会普及啓発部
TEL: 03-3292-9288 E-MAIL: hakyu_hq@jpta.or.jp

このポスターは電子データ形式で提供されています。2025年

—令和7年度公益財団法人静岡県結核予防会 講演会—

県民健康づくり講座

WEB配信

主催／公益財団法人静岡県結核予防会・静岡県結核予防婦人会

参加無料

講演期間

2025年9月24日(水)～10月14日(火)

「今年流行の感染症と今度パンデミックを 起こすかもしれない感染症の話」

講師 静岡県 健康福祉部 感染症管理センター長
兼 富士健康福祉センター医監
兼 富士保健所長

後藤 幹生 先生



「外国出生者結核患者の動向と 国境をまたぐ最新の取り組みについて」

講師 公益財団法人結核予防会 結核研究所
対策支援部 企画・医学科長 平尾 晋 先生

講演
①

講演
②

お申込みから受講までの流れ

開催期間内随時申込受付中

【①申込みフォーム②メール③FAX】いずれかの方法でお申込みください

お
申
込
み
方
法

①申込み
フォーム



②メール



③FAX申込

別紙
専用申込書
をご利用
ください

申込み後
事務局より
登録完了
メール送信

配信日2日前より

視聴に関する
URL・資料などを
送付いたします

①申込みフォームURL

[https://
forms.gle/xjHuzbEMFdE2CC1Z8](https://forms.gle/xjHuzbEMFdE2CC1Z8)

②申込みEメール

tbshizu@gmail.com

【記入事項】

①Eメールアドレス ②氏名/団体名 ③電話番号 ④参加人数

お問い合わせ: TEL054-261-2512 (担当/杉山・近藤)

一塚本副知事を表敬訪問一



9月4日、静岡県結核予防会の萩原理事長・神山常務理事と静岡県結核予防婦人会井出会長が塚本副知事を表敬訪問いたしました。

萩原理事長から8月1日より開始されている複十字シール運動は、結核や肺がんなど呼吸器系の疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、事業資金を集める活動と説明、令和6年度静岡県の募金実績は3,111,314円で全国8位の実績と報告しました。



また、最新の2024年統計によると、日本における結核の現状は、新登録患者数は10,051人で、人口10万人当りの罹患率は8.1、静岡県の現状は、新登録患者数は249人で、人口10万人当りの罹患率は7.1であり、結核低まん延国の水準を維持していますが、日本の新登録患者数全体の7割超を70歳以上の高齢者、20歳代の新登録患者のうち8割超を外国出生者が占めており、その対策が重要な課題となっていることから、今後も結核の根絶に向けて対策の手を緩めることなく、一層の推進を図ることが求められていると、運動への協力をお願いしました。

井出会長からは、結核に対する今よりさらに広い層への普及啓発を目指して、今年度は静岡県結核予防婦人会と静岡県立大学看護学部が協働し、若い世代とともに複十字シール運動キャンペーンに取り組んでいくことをお知らせしました。

塚本副知事からは、「近年では結核の新規感染が増えたこともあり、普及啓発に継続して取り組むことが重要である、若い世代とも協力して訴求力の高い啓発活動に取り組んでいただきたい。」とお言葉をいただきました。



令和7年度

複十字シール募金に

ご協力をお願いします。

～運動期間 8月1日から12月31日まで～

公益財団法人結核予防会では、「結核のない世界」をつくるため複十字シール運動による募金活動を実施しています。皆様の温かい善意の収益金は、結核予防思想の啓発活動、発展途上国の結核対策援助等の諸事業に充当させていただきます。

今年度も複十字シール募金へのご協力をお願いいたします。

<2025 年複十字シール>

テーマ：日本の昔話

複十字シールには、健康を願うメッセージが込められています。

今年度は日本の昔話をシールに描きました。想像力をかきたてる面白さや悪い行いが必ず報いを受けるという教訓とともに、他者を愛する心の大切さも教えてくれます。

担当 大澤

